

# 直方ミニバスケットボールクラブだより

## チームをつくる・チームになる



6月の活動再開から、新型コロナウイルス感染予防に気を配りながら、個々のスキルを高めるために個人練習を中心に活動してきました。新型コロナウイルス感染は、完全終息には至っていませんが、感染防止対策が新生活様式として定着してきており、徐々に活動を活発化させています。

10月に入り、チームづくりにとりかかっています。これまでは、自分に力をつける活動でしたが、これからは、チームメイトとともに一つのプレーをつくる活動になります。そこで必要なのが、声かけ（ことば）です。

コロナ禍での活動で、これまでは自分で黙々と練習することを推奨してきました。しかし、チームづくり、チームプレーとなると、声（指示）を出し、ことばを交わす習慣を身につけなければ成り立ちません。多少下火にはなっているものの「コロナ禍」であることは変わっていませんので、十分配慮しながらの活動ではありますが、「自分が自分のために...」から、「自分がチーム（メイト）のために...」へと具体的な活動を転換していかなければなりません。10月、まだスタートしたばかりですが、ここからまた次の段階に入っていきます。

声を出す、声をかける、指示するためには、状況（プレー）を見ていなければなりません。そして、ただ見てるだけではなく、プレーを見抜く、見通す力をもっていなければなりません。そのうえで、「気づき」をことば（声）にして言わなければなりません。スポーツの世界では、「声を出す」ことがよく求められますが、その中身にはいくつかのプロセスがあり、そのための力を持っていなければ、声を出すことはできません。多くの子どもたちが苦手とする部分です。

「自分が自分のために...」は、すべてのことが自分に集約されますから、うまくいってもうまくいなくても、すべて自分にかえってくるだけです。個人種目、個人競技であれば、それでOKでしょうが、団体種目、チーム競技は、ちがいます。「自分がチーム（メイト）のために声をかける」、「チーム（メイト）も自分のために声をかけてくれる」、その関係が大事になります。「ひとはみんなのために、みんなはひとりのために」ですね。自分が勝ちたいと思っても、自分一人ががんばるだけでは勝てません。チームみんなでがんばらないと勝てません。だから、気づいたことは、互いに声（ことば）にして言い合える関係を、日々の活動を通して育てておかなければなりません。